

# 平成23年度全国結核対策推進会議に参加して



独立行政法人国立病院機構青森病院  
さかもと よしお  
内科医長 坂本 佳穂

平成24年3月2日に「低まん延化に向けた施策の展開」と題し、平成23年度全国結核対策推進会議が開催されました。その概要を報告します。

## 講演

### 1. 「新しい通知について」

厚生労働省結核感染症課 伊藤智朗課長補佐

結核の罹患率は次第に低下の方向ではあるが、地域格差の増大、高齢患者の増加とそれに伴う合併症の問題などがある。

これからは病棟単位から病床単位への転換、つまりユニット化、モデル病床の活用が必要である。

予防指針改定のポイントは、必要な結核病床の確保と患者中心の医療供給体制を再構築すること。DOTSを推進すること。新たな、具体的な目標設定をすることである。

### 2. 「IGRA の応用と問題点」

結核予防会結核研究所 森亨名誉所長

クオンティフェロン 3G は肺結核の診断に有用である。日本では0.1 から0.35 を偽陽性としているが、これについては一般（低まん延）集団では偽陽性は陰性と、疑わしい（高まん延）集団では偽陽性は陽性と解釈する。繰り返し検査をした時、陰性から陽性に変化したときは2.8 倍までは誤差範囲と考え、それ以上は陽転と考える。経過を見るためには判定だけでなく、測定値を管理する必要がある。

### 3. 「神戸市での分子疫学調査の現状」

神戸市中央区役所保健福祉部 藤山理世主幹

神戸市では「神戸市結核予防計画2014」を策定、菌バンク事業を行い、新規登録結核患者すべてを対象としてVNTRdatabase、菌凍結保存、同定検査、感受性検査を行っている。神戸市では神戸市保健所、神戸市環境保健研究所、医療機関と連携を図り菌の収集に努めている。

## シンポジウム「地域連携体制の整備」

### 1. 「地域連携～医療機関の立場から」

大阪府立呼吸器アレルギー医療センター 田中久美

同センターでは2001年から入院DOTSを、2006年から外来DOTSを実施している。病院、患者、保健

所が連携を組み脱落を防いでいる。院内では結核勉強会を実施しており、医療看護の均一化を目指している。

### 2. 「地域連携の強化に向けて～保健所の立場から～」

福島県北保健所 鈴木栄子

同保健所は医療機関と連携し、在宅患者の服薬支援を行っているが、平成21年度からは服薬支援者の育成を開始。薬局DOTSの推進と服薬支援ボランティア講座を実施している。

### 3. 「MDR 患者支援体制・地域連携クリティカルツール（仮称）作成を通して」

大阪市保健所 有馬和代

大阪市では府・4市結核連絡調整会議を持ち、課題の解決方法を議論し対処を行っている。一例として、長期入院患者の問題があり、長期入院のストレスを緩和するための方策を行政と医療機関とともに考え対策をとった。また地域連携の強化のため地域連携クリティカルツール（仮称）を作成した。

### 4. 「結核指定医療機関における地域DOTSの実施状況」

東京都北区保健所 中坪直樹

東京都多摩地区の外来結核医療に携わる医療機関に対し結核治療、地域DOTSに関するアンケート調査を行った。DOTSを知っていたのは過半数以下で、DOTSの施行について消極的なものは78%であった。地域DOTSを普及させるためには、結核診療や結核に関する知識を医師が空いている時間に学習できるツールを提供する必要がある。



ロビーでのポスター展示紹介